したらば、あるいは
暗黒の英雄
5月30日
Sudden Fiction Project
高階經啓
hirotakashina

5月30日のおはなし「したらば、あるいは暗黒の英雄」

　ピーボは走った。暗がりを選んで、音も立てずに、すばやく走った。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　ピーボの足音はこんな感じだ。それと知らなければ聞き逃してしまうくらいに小さい。小さいし、およそ足音のようには聞こえない。したらばしたらばしたらばしたらば。足の裏が地面に吸い付く瞬間に「した」と言い、地面を後ろに蹴り放つ瞬間に「らば」と言う。腰を落とし、両脚を前後に大きく開いて進む有様は、走るというより極めて早く歩いていると言った方が正確かもしれない。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　そのころ別な宇宙ではこの上ない大音量とともに世界が崩壊していた。小さな所から言えば大陸が割け、マグマが噴出し、山塊は崩れ落ち、海は沸騰して瞬く間に蒸発し、豪雨がたぎり落ち、轟音とともに雷が大気を切り裂いた。しかしそれもこれも一瞬のことで惑星はすぐそばに迫ったふくれる恒星に飲み込まれ、属する惑星たちを次々に飲み込み終わると恒星は一転して縮まり始め、みるみる小さく元の大きさよりも小さくなったかと思うや光をも逃がさぬ天体と化し、暗く暗くあらゆるものを飲み込み始めた。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　ピーボは走った。なりふり構わず、計画も目算も持たず、ひたすらに走った。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　走るピーボの頭の中には、どこかで終わりを告げる宇宙の姿が何度も繰り返し浮かんで来る。気がおかしくなって幻想を見ているのか、どこか別な世界を垣間見ているのか、さもなければこれから起こることを幻視しているのか。そんなことはピーボには分からない。ただ自分が何とかしなければと思い込んでいる。宇宙の終わりを自分に止められると思っているわけではない。けれども自分しか知らなくて他の誰も取り合おうとしないなら、自分でやるしかない。だからピーボは走る。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　いったん飲み込まれた天体たちはもう音を立てることはない。けれども吸い寄せられ、互いに

衝突し、あるいはちぎれ、あるいは爆発しながら近づいて来る天体は、最早音と呼ぶのもふさわしくないような音の場をつくりだす。空間の全てが音そのものと呼ぶしかない。全ての音色があり、全ての音階があり、全ての音量があり、全てのリズムがあり、全ての旋律があり、要するにおよそ音に関するものでその場にないものはなかった。ただひとつあるとすれば、それは音でないものだけだった。爆音も轟音もここでは静けさ同然だった。

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　やがてピーボは研究所にたどり着き、博士の研究室にしのび込み、いま世間を騒がせている実験室に踏み込んだ。一度踏み込んだらもう命がないことは知っている。けれどこの実験室ごと、いや研究室ごと消し去らなくては早晩我々は死滅してしまう。それほど恐ろしい細菌を博士はつくってしまったのだ。あの事故以来、博士は嘘をついている。それが嘘だということをピーボは知っている。

「培養器の中で増殖を抑え、安定した状態です」

　誰にも中を見せずに博士はそう繰り返す。培養器の中で細菌が増殖を抑えられ安定した状態なのは確かだ。けれども培養器の外はどうだ？　あの事故で飛び散った細菌がどうなっているのか、博士にだってわからないはずだ。恐らくまだ実験室の中に留まっているだろう。でも研究所内のあちこちに広まるのは時間の問題だ。そうすれば感染者が生まれ研究所全体を汚染し、たちまち大気中に広まり、遠からず町の人びとに伝染していくだろう。そうなる前に飲み込まなくてはならない。

　実験室の真ん中に立ち、ピーボは大きく息を吸った。何もかも飲み込むピーボの深い吸気。まず細菌を育てている培地が飲み込まれ、フラスコやビーカー、バーナーや遠心分離機、培養ケース、ワゴン、ピンセットや手袋、蛍光灯、実験室の壁一面につくりこまれた棚と棚に並ぶものたち、それらを支える壁、天井、隣接する研究室、隣の部屋のすべて、その隣の部屋の全て、そして研究所全体とピーボは飲み込み始めた。何もかもが捉えきれぬ程に早くてあまりに早過ぎてその時、

　したらばしたらばしたらばしたらば。

　と音が聞こえたかどうかわからない。けれどピーボを中心にありとあらゆるものが飲み込まれ始め、いったん勢いがつくともうピーボにも止めることはできなかった。かつてピーボだったものはどんどん重力を増し、やがては近所の天体たちをも引きつけ始める。大陸が割け、マグマが噴出し、山塊は崩れ落ち、海は沸騰して瞬く間に蒸発し、豪雨がたぎり落ち、轟音とともに雷が落ち、惑星たちを次々に飲み込んだピーボは光をも逃がさぬ天体と化し、暗く暗くあらゆるもの

を飲み込み、空間の全てを音そのものと変え、やがてその空間も飲み込まれ失われてしまい、

　あとは、沈黙。

（「あとは、沈黙」ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

新作スタート。お題募集中。

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。
「急募！お題」のコメント欄で受け付けています。
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

（お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、
　どうか上記コメント欄をご利用ください）

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は
　「SFPインデックス（ただいま作成中）」
　をご活用ください。

したらば、あるいは暗黒の英雄

http://p.booklog.jp/book/38123

著者：hirotakashina
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/38123

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/38123

公開中のSudden Fiction Project作品一覧
http://p.booklog.jp/users/hirotakashina

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.